

I 復興計画の基本的性格

1. 復興計画の背景と目的

平成19年3月25日に発生した能登半島地震は、死傷者約350人（うち死者1名）、建物の全半壊、一部損壊が約16,000件に上るなど、奥能登を中心に未曾有の被害をもたらしました。輪島市門前町にある総持寺通り商店街（以下「商店街」という）においても、店舗・住宅の全半壊が相次ぎ、営業の休止をはじめ、仮設店舗での営業など、困難な状況に直面しています。

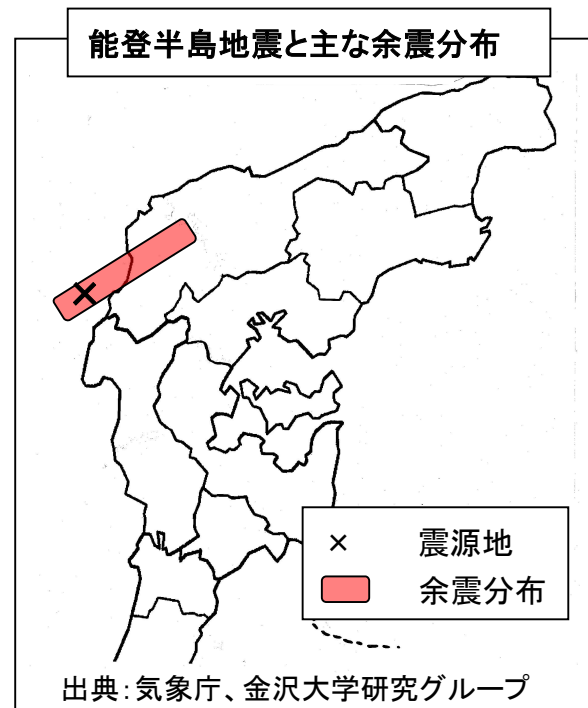
本商店街は、曹洞宗の名刹・大本山總持寺祖院の前にあり、いわば歴史のある町・門前の顔とも言える存在です。近年は、こうした特長を前面に押し出し、一層魅力ある商店街づくりを進めていこうとしていた時だっただけに、今回の地震は、大きな痛手となりました。

こうした状況に対して、国は輪島市を局地激甚災害地区に指定し、石川県、輪島市も各種復旧、復興支援策を打ち出し、対策に乗り出しました。本商店街では、こうした動きに対応して、商店街の復旧、復興を図ることを目的とするものです。

2. 復興計画の位置づけ

本復興計画は、旧輪島市と旧門前町が合併し、平成18年2月に新「輪島市」が発足したのに合わせて策定された「第一次輪島市総合計画」を上位計画としています。本計画は、「“あい”の風がはぐくむ 快適・活気・夢のまち ～歴史が息づき 人が輝く まちづくり～」を将来像（テーマ）とし、基本方針として、以下の8つを掲げています。

1. 地域で支え合う人にやさしい安全・安心のまちづくり
2. 心身ともに健やかな人を育むまちづくり
3. 世界に誇れる文化を次代に受け継ぐまちづくり
4. 活力に満ちた地域産業が発展するまちづくり
5. 人が集い交流が盛んなにぎわいのあるまちづくり
6. 誰もが住みたいと思う快適なまちづくり
7. 豊かな自然につつまれた潤いのあるまちづくり
8. 市民と行政との協働による効率的なまちづくり



また、これまでに策定した総持寺通り協同組合の「にぎわい参道拠点整備事業」（平成14年3月）や旧門前町の「総持寺周辺地区街並み環境整備事業」（平成15年3月）等の計画を踏襲するものです。

3. 復興計画の期間

計画期間は、平成19年度から平成23年度までの5年間とします。

4. 復興計画の策定方法

本商店街では、設置した復興委員会での会合を中心に復興計画を策定します。計画策定に当たっては、総持寺通り協同組合の組合員を対象に行ったアンケート調査やヒアリング調査の結果も踏まえます。



大本山総持寺祖院



大本山総持寺祖院



館地区の民家



櫛比神社

Ⅱ 能登半島地震による輪島市門前地区における被害状況

1. 地震の概要

- (1) 発生日時 平成19年3月25日(日) 午前9時41分頃
- (2) 震源 能登半島沖
- (3) 規模 マグニチュード6.9
- (4) 震度 6強

2. 被害状況等

(1) 人的及び家屋関係の被害(平成19年7月30日現在)

①死亡者

- ・ 0人

②負傷者

- ・ 重傷者 22人 軽傷者 7人 計 29人

③住家災害

- ・ 全壊 327棟
- ・ 大規模半壊 74棟
- ・ 半壊 570棟
- ・ 一部損壊 2714棟

④非住家災害

- ・ 全壊 1121棟
- ・ 大規模半壊 109棟
- ・ 半壊 823棟
- ・ 一部損壊 3029棟

⑤避難所(3月25日 24:00 ピーク時)

- ・ 避難所数 18箇所 避難者数 1540人



館地区の民家



館地区の民家

(2) ライフラインの被害

①上水道

- ・ 2500戸給水停止 給水停止期間 3月25日～4月7日午前8時

②電気

- ・ 全世帯停電 停電期間 地震発生時から3月26日午後4時50分

(3) ボランティア参加者数 10,754人 3月28日～5月31日

3. 総持寺通り商店街の被災状況（店舗施設、平成19年7月31日現在）

・全壊	8名・・・①	
・大規模半壊	3名・・・②	
・半壊	15名・・・③	半壊以上の割合 70.27%
・一部損壊	9名	(①+②+③) ÷ ④
・被害なし	2名	
計	37名・・・④	



沢田酒造店



下口呉服店



マルタ屋



興禅寺



マツモト



寿し政



諸岡金物店



総持寺通り



市指定文化財・旧酒井家住宅及び土蔵



応急危険度判定で立ち入り「注意」を示す貼り紙



応急危険度判定で立ち入り「危険」を示す貼り紙